

保育入門 (六)

倉橋惣三

六、幼稚園教育と設備 (上)

すべての教育を通じて、設備は重大なる關係を有するものであるが、特殊なる研究上或は教授上の裝置を別にして、一般教育的效果の上からいへば、被教育者の年齢と反比例的に、其の關係が大且つ密になるのである。蓋し、兒童は其の幼少なれば幼少なる程、設備の支配から獨立することが難いからである。殊に幼稚園教育に於ては、其の四つの原則よりして、設備の力に俟つこと最も多からざるを得ないことになるのである。勿論、教育の中心は人にあつて、幼稚園教育に於ても變りはない。しかも此の教育は、前に述べた通り（第六『幼稚園教育の原則』）幼兒の自發的生活及相互的生活を最も尊重するの結果、保姆は幼兒達に對する自己の支配を餘りに直接的に影響せしむるこ

とを差控へなければならぬ點がある。是に於て設備を通じて、間接的に幼兒の生活を支配してゆくに必要が起るのである。即ち幼稚園教育に於て設備の力が大であるといふのは、保姆を離れた別箇の機關としていふのではなく、保姆の力の最適切なる表點の一つとしていふのである。

然らば幼稚園の設備は如何なる性質、如何なる條件のものなるべきやといふに、此の教育の原則と顧慮とに基くべきものたるは言を俟たない。設備を完全にするといへば、其の弊往々にして贅澤なる造築裝具を誇るようなことになるが、それは甚しき誤解である。殊に徒に非教育的なる設備に凝つて、遂に此の教育の原則と顧慮とを無視するようなことがあつたならば、其の害は、設備に就

て無頓着なるの害よりも却つて大なのである。即ち幼稚園の設備は、一つに此の教育の原則と顧慮よりして立案もし評價すべきもので、何等他の見地よりすべきものではない。

一

幼稚園の設備の中、四つの原則、三つの顧慮に對して、最も充分なる條件を完備し得るものは、廣き遊園である。而かも往々にして此の遊園が幼兒教育の主要なる設備たる性能を存分に發揮し得ないの、次の如き二つの誤解によるものである。

その誤解の一つは、他の學校教育に於ける運動場の目的と、幼稚園の遊園の目的との混同である。即ち學校教育に於ては、其の教育の中心は課業にあつて、課業の場所は教室である。従つて運動場は、各課業間の休憩時間に、神氣を恢復する休養の場所か、乃至は體操といふ特別な課業の爲に使用せらるゝ場所である。然るに幼稚園に於ては或る特別な目的の爲め設備でなくして、全部の

教育を行ひ得べき場所である。次に幼稚園の遊園と所謂庭園との混同である。即ち庭園は建築上純粹なる裝飾の目的のものであつて、謂はゞ見るに楽しむものである。その盆池水石の配置、樹容草態、或は座敷に座して眺むべく、或は椽に立つて賞すべく、或はたか／＼出でて輕歩を花間の小路に運ぶ位のことである。即ちいづれにしても觀賞の目的が主となつて居る。而して幼稚園の遊園は之れとは全然趣を異にした、幼兒の全生活のための場所である。

學校の運動場と雖も、座敷の庭園と雖も、勿論それ／＼の必要を具ふるものである。しかも多少從屬的性質を帯びて居る。教室に附屬するもの、座敷に附屬するものとなつて居る。之れに反して幼稚園の遊園は、それ自らが幼兒教育の主なる設備である。之れを保育室に附屬するものと考へることは根本的の誤解の基である。詳しくいへば、保育室内の課業に疲れたものを遊園の逍遙散策に

よつて休養せしむるのではない。或は又、保育室の窓から見た風致の爲の造庭でも勿論ない。従つて幼稚園の設計よりいへば第一に注意せられ考慮せらるべく、日々の使用よりいへば、能ふ限りの利用を盡さるべき場所である。

遊園を教育の主要なる設備とすれば、彼の小学校の運動場に屢々見る如き、たゞ一劃の平板なる地といふのでは足りない。若し理想をいふならば次の如き諸點を具備し度い。

(イ) 成るべく廣いがよいこととは言ふまでもないが、出来ることならば諸種の地形の變化を含むものであり度い。殊に斜面は最も必要である。

(ロ) 全體の調子が成るべく自然的であり度い換言すれば、さもく人工的に造つたものといふ感じを少くし度い。

(ハ) 清楚なる趣味を具ふるものであり度い。但し其の趣味たるや所謂成人の風流をいふのではない。どこ迄も幼兒本位のものでなければならな

い。

此の他、遊園内に設くべき諸種の小設備の必要は勿論であるが、殊に必要なは、遊園に於て所謂戶外遊戯のみならず諸種の保育をなし得る設備である。幼兒の一群を集めてお喋りをするとか、諸種の室内式玩具を興へて遊ばせるとか、鉛筆を持ち出して繪をかくとか、或は粘土細工をするとか、斯ういふことは必ずしも室内でなくとも容易に出来ることである。たゞ日光の直射を防ぐべき軽い屋根と、テーブルと、椅子とがあればよいのである。風涼しい綠蔭でもあれば尙更結構であるが、そうでなくとも、簡易なる天幕、乃至野趣外き葦簾張りでもいゝのである。斯くして雨天にあらざる限り、出来るだけ遊園を主に用ゆることは、此教育の必要なる顧慮中、殊に身體及び神經の養護の上にも最も適切なることである。のみならず保育室の不足より生ずる種々の困難をも補ひ救ふことが出来るのである。

遊園は最もよき保育場であるが、室内生活の訓練も亦重要なことであつて、そのために室内保育の場所が必要になる。

室内保育の場所は通常『大きい室』と『小さい室』とに分たれる。『小さい室』は即ち組の室であつて、幼児にとつては『自分等の室』となるべきものである。『大きい室』は一つには屋根のある遊園の代用をなすべきものであつて、孰れの組も使用（共同的にも個々のにも）し得る處である。

(い) 『小さい室』即ち組の室は其の幼稚園の定員幼児數によつて數を異にする譯であるが、一室内の幼児數は、其の年齢の幼児が相互關係を持して共同生活をなし得るの限度を超えることは望ましくない。換言すれば、『小さい室』の主なる目的は幼児達に統一ある相互的生活を訓練するにあつて、其の統一が害せられ、或は、無意味なる多數の集團になり了ることは最も避くべきことである。

勿論熟練なる保姆は、其の支配力を以て可なり多數の幼児を巧に統禦したるものである。併しながら、其の技倆を標準として『小さい室』の人員を定むることは出来ない。若しさういふことが極端に行はるゝならば、一人の羊飼に統一引率せられながら、各自の間には何の相互的關係もない羊の群と同じことになる。それでは此の『小さい室』の教育の主なる意味は行はれないのである。

『小さい室』に於て最も肝要なる設備上の注意は幼児の座席である。而して、其の注意は、幼児の自發生活及び相互生活を少したりとも妨ぐることなく、之れを充分誘導促進し得ることである。すなはち學校の教室に於ける座席の配置とは、全然本來の要求を異にするのみならず、彼の如く、各自にとりては**固定的**にして、**全體**としては**教師中心**的なる配置は『小さき室』の精神を無視せるものである。但し必ずしも一定の型式はないのであつて、たゞ幼児達が成るべく自發的になり、且つ

相互的になる様にと工夫せらるればよいのである。

(ろ) 『大きい室』に於ては、一つの組が其處に來て遊戯をすることもある。唱歌をうたふこともある。或は二つの組が一緒になり、三つの組が合し、『小さい室』よりは大きい共同の訓練を興へられる。或は又全園の幼兒が一堂に會することによつて、大きい全體といふ感じを銘々の心に起させることもある。従つて茲に於ては純粹の自發的との相互的とかいふことよりも、群集の力を以てする或る教育が行はれるのである。其の爲に其の設備は『小さい室』とは別になる。たゞに『小さい室』の擴大ではないのである。然しこれは、『大きい室』が特に或る目的に用ゐられた場合であつて平常自由遊戯の場所として解放せらるゝ場合は、遊園と同様な目的が室内で行はれるといふだけで、其の條件は矢張り自發と相互とを完からしむるの他にない。

幼稚園教育と美的陶冶

倉 橋 生

今日我國の幼稚園教育を通覽して、一般に最も發達して居ないと思ふ點は、美的陶冶の研究である。但し之れは幼稚園に限つたことではなく、すべての教育に通じて居る缺陷ではあるが、幼稚園教育に於ても、其の足らざること實に甚しいのである。即ち幼稚園教育のすべての方面が、常に訓育の上からと衛生の上からとのみ注意せられて、幼兒の美的陶冶の上に及ばず影響といふ點からは、甚だ研究が足りない。勿論保姆の趣味を標準として、自然的に撰擇はせられて居るのであるが、其の美の標準の正しい知識の研究に就て、及び各自の美の趣味の向上に就て、未だ頗る不充分と言はざるを得ない。その爲に、保育室に随分不調和な、低い趣味の裝飾が平氣であつたり、幼兒の色彩の取扱などに一寸美の知識があれば容易に